

水戸市の市街地に建設された謎の構造物 その正体を探る！

[取材現場] 水戸市 教育委員会事務局教育部 歴史文化財課

[取材協力者] 薄井 俊平氏、米川 健太氏（水戸市 教育委員会事務局教育部 歴史文化財課）

連載第6回となる今回は、「水戸市の市街地に建設された謎の構造物」（写真1）に焦点を当て、これがなぜ建設されたのか、その謎を解き明かすべく、水戸市の教育委員会内にある歴史文化財課に取材を行いました。取材の結果から、水戸市の地形に大きく関係した重要な構造物であることが分かりました。本誌では、この構造物の歴史的背景や建設理由、今後の活用方法などについて、紹介します。

——この構造物はいつ建てられたのですか。

竣工は1932（昭和7）年で戦前の構造物になります。当時の資料から、足場や仮設を組み、鉄筋コンクリートを用いて建設した構造物であったことが分かっています。水戸市は、戦時中に空襲を受けてしまっ



写真1 水戸市水道低区配水塔

たこともあり、50年以上残存している構造物は非常に少ないです。その中でもこの構造物は、大きな被害を受けず、戦火を耐え抜き、戦後も機能していました。今では、水戸市の歴史を象徴するものの一つになっています。

——この構造物の正体は何ですか。

この構造物は「水戸市水道低区配水塔」と呼ばれています。この構造物の建設と同時に、水戸市に近代水道が整備されました。水戸市を流れる那珂川から取水して、ろ過・消毒を行い、この配水塔にポンプアップして各世帯に配水を行っていました。水戸の市街地は江戸時代の区割りによって旧藩士が住む武家屋敷のある上市と、町人階級が暮らす下市とに分けられました。その下市に配水するために、建てられたのがこの構造物です。当時は上市に水を送るための配水塔もありました。しかし、老朽化に伴い現在では解体・撤去されています。

高さは21・6mあり、タンクの直径は11・2mです。配水塔内に収納されている鉄製水槽の容量は358m³で、一般家庭の浴槽に換算すると約1200杯分に相当します。1999（平成11）年まで現役として使用されていました。この塔は、1985（昭和60）年に近代水道百選に、1996（平成8）年には国の登録有形文化財になりました。また、2014（平成26）年には、土木学会の選奨土木遺産に登録されました。このことから、非常に歴史的価値のあるものである



写真2
2階にあるレリーフ（枠で囲まれた部分）



図1 水戸学の道（図左上、丸の部分が配水塔）

また、この塔は、2014（平成26）年に策定された「弘道館・水戸城周辺地区の歴史まちづくり基本構想」で一つの資源として指定されています。この基本構想は、この地区の歴史的景観を輝かせ、魅力ある空間形成を行うことを目的としており、現在は水戸城の大手門や二の丸角櫓の復元、路面整備などを行っております。

ことが分かります。

この塔は、後藤鶴松氏によって設計されました。この方は、水戸市に赴任するまで、津や熱海などの水道工事に携わっており、水道工事のスペシャリストでした。この塔は、後藤が最後に携わった構造物であり、培った経験をいかんなく発揮した集大成といわれています。

そのため、見た目もかなり工夫されており、2階に鉄筋コンクリートのバルコニーを取り回し、1階の入り口上部にゴシック風のアーチが描かれています。壁面にはロマネスク

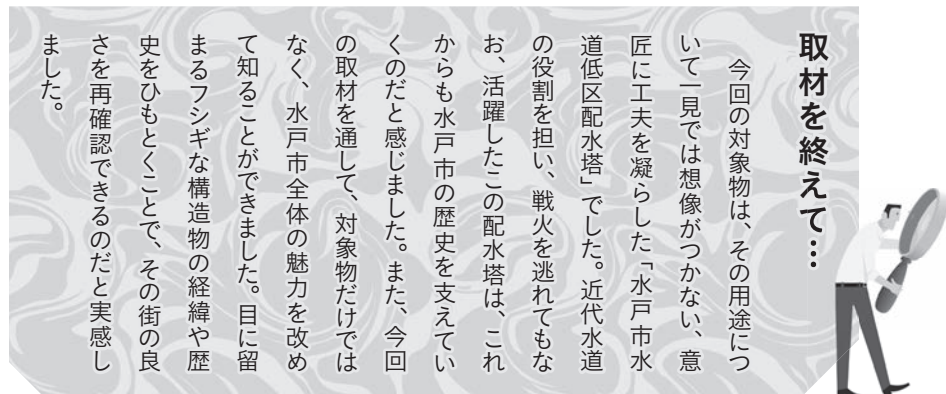
風の小窓が設けられており、外から見ただけでは配水塔だとは分からない造りになっています。また、2階壁面に彫られているレリーフは消防用のホースノズルが表現されていて、消防用にも期待されていたと考えられます（写真2）。

— 今ほどのような使われ方をしていくのでしょうか。

数年前までは、文化庁からの指示もあり、保護保存を第一に行っていたのですが、近年方向転換をし、保護保存だけではなく活用という考えも加わりました。そこで現在は、年末年始や

4月、夏のお祭りの時期にライトアップを行っています。また、LEDライトを使用していることもあり、さまざまな色に変えることもでき、最近では、「女性に対する暴力をなくす運動」のパープルリボンキャンペーンに合わせて紫色にライトアップを行っています。他にも、かなり特徴のある意匠ということもあり、映画やテレビなどの撮影場所としても利用されています。基本的には、老朽化していることから中に入ることはできないのですが、撮影などで入る必要がある場合は、歴史文化財課も立ち合い、危険がないか確認を行っています。

（担当編集委員…池谷風馬、深澤英将）



す。この構想内で設定した散策ルート（水戸学の道）（図1）に、水戸市水道低区配水塔はスポットの一つとして紹介されています。このように今後も水戸市の歴史的構造物の役割を担う塔になっています。